

地域おこし協力隊の活動報告会

地域おこし協力隊の活動報告会が12月18日、白老町コミュニティセンターで行われ、隊員が活動の内容などを報告しました。

隊員は川下正己さん（水産業振興担当）、滝田圭さん（農畜産業振興担当）、小箱駿太さん（スポーツ振興担当）の3人です。

川下さんは2024年度から取り組んでいるホッケの陸上養殖実験について説明。「データ蓄積と養殖マニュアルを作成、活字に表せない経験などの技術継承を進めたい」と話しました。

「稼ぐ一次産業の実現」を掲げる滝田さんは、飲料メーカーと和牛生産農家が協働した取り組みや函館空港での白老牛ハンバーグ販売、キャンプ場での白老牛メニューの提供などの実績を報告。「白老牛の価値を高める努力を続けていきたい」と抱負を述べました。

小箱さんは「子どもたちの運動機会の創出」「運動の習慣化」など、五つのテーマを掲げながら、本年度プールで実施したプールサップなどを紹介。「白老での2年半で得たつながりを大切に、白老に生まれてよかったーと思える子どもを育てていきたい」と話し、大塩英男町長も3人の功績に感謝していました。

白老町では平成28年から地域おこし協力隊制度を運用しており、これまで23人の隊員を委嘱しています。



川下さん



滝田さん



小箱さん

まちづくりアイデアコンクール 白翔中3グループに最優秀賞

中学3年生を対象にした「まちづくりアイデアコンクール」の表彰式が12月22日に行われ、最優秀賞を受賞した白翔中や優良賞の白老中に表彰状が贈られました。

大塩英男町長は7月、白老、白翔の2中学校で地方自治に関わる特別授業を行い、3年生が住みよいまちづくりを考えました。授業を受けて取り組んだ「まちづくりアイデアコンクール」では、11グループから提案があり、選考会で最優秀賞（町長賞）に白翔中3グループの「白老の魅力を生かした春夏秋冬イベント計画」、優秀賞（教育長賞）に白翔中4グループの「仙台藩元陣屋をよりよい名勝地に」が選ばれました。優良賞は4点でした。最優秀賞は、仙台藩元陣屋での武士体験（春）、旬の魚を使ったすし握り体験（夏）、紅葉フェスと味覚大集合（秋）、冬の森野まつり（冬）の提案が高い評価を受けました。表彰状を手渡した大塩町長は「これからも白老のことを考えて、たくましく成長してほしい」と話していました。



表彰状を受け取る白翔中代表

文化祭合同発表会

第60回白老町文化祭第37回合同発表会が12月13日、中央公民館で行われ、詩吟や舞踊など多彩なステージが披露されました。

発表会には11団体が参加。バレエ（向井バレエシアター）、詩吟・舞踊（聖月流日本詩吟剣詩舞道会）、民謡（白老民謡連盟）のほか、ひょっこり踊り白老愛好会や白老民族芸能保存会のステージもありました。ウインズブラスの吹奏楽では、おなじみの「北酒場」なども演奏され、来場者を楽しませました。

発表会は10月に予定されていましたが、鳥インフルエンザの発生で12月に延期になっていました。



楽しいステージが披露された文化祭合同発表会